

# 乙女 文楽

第14回 公演

おとめぶんらく

2025年 2月1日 土 15:00開演 • 2日 日 11:00開演  
15:00開演

開場：各日開演の30分前 【料金】 前売 3800円 当日 4000円

川崎市国際交流センター ホール (川崎市中原区)

\*当日は開演1時間前より入場整理券を配布いたします。

2024年12月2日(月)10時より前売開始

## 「二人三番叟」

演目

## 「奥州安達原」

袖萩祭文の段

出演 ■ ひとみ座乙女文楽

「奥州安達原」

浄瑠璃 ■ 竹本越孝

三味線 ■ 前 鶴澤駒治

奥 鶴澤三寿々

指導 ■ 故 桐竹智恵子

■ 桐竹勘十郎

お申し込み

現代人形劇センター Tel.044-777-2228

E-mail ticket@puppet.or.jp

チケットぴあ Pコード 530853 t.pia.jp

イープラス eplus.jp

お問い合わせ

(公財) 現代人形劇センター

TEL 044-777-2228 FAX 044-777-3570

E-mail asia@puppet.or.jp URL www.puppet.or.jp

\*チケットはモトスミ・プレーメン通り商店街事務所でも取り扱っております。  
TEL 044-422-3626

\*ひとみ座倶楽部会員の方は料金の優待がございます。  
(取扱窓口・現代人形劇センターのみ)

主催 ■ (公財) 現代人形劇センター

後援 ■ 神奈川県/川崎市/川崎市教育委員会

(公財) 川崎市文化財団

(公財) かわさき市民活動センター

(公財) 川崎市国際交流協会

(公財) 日本伝統文化振興財団

(公財) ホーラ伝統文化振興財団

川崎商工会議所

NPO 法人日本ウニマ (国際人形劇連盟日本センター)

協力 ■ 森とせせらぎネット/井田中ノ町商栄会

モトスミ・オズ通り商店街/川崎市民俗芸能保存協会

モトスミ・プレーメン通り商店街振興組合

# 乙女文楽とは?

「文楽」はユネスコの「無形文化遺産」にも登録された日本を代表する伝統人形芝居。1体の人形を3人で操ることで、感情やしぐさを繊細に表現します。それに対し「乙女文楽」は、1人の人形遣いによって演じられます。大正末から昭和初期に文楽の人形遣い五世桐竹門造らによって誕生し、1人で遣うために、人形の仕組みと操り方にさまざまな工夫がなされています。

**ひとみ座乙女文楽** ■創始者桐竹門造の直弟子である故・桐竹智恵子に1967年から教えを受け、翌68年に初公演。以来56年にわたって、国内はもとより世界各地で公演し、近年は地域に根ざしたさまざまな普及活動にも力をいれています。智恵子師亡き後は2010年より文楽の桐竹勤十郎師に指導をあおいでいます。メンバーは人形劇団ひとみ座の女性を中心とする演技者です。2018年「川崎市地域文化財」として顕彰。2019年「松尾芸能賞特別賞」受賞。

## ■ 演目紹介

### ■ 配役

2月1日 (15時)

荒木倫子 鶴田理紗

2月2日 (11時)

富木義之 金子優子

2月2日 (15時)

荒木倫子 鶴田理紗

\*物語や人形の解説には  
手話通訳が付きまます。



## 「二人三番叟」

にんに さんばそう

「三番叟」は祝儀や儀礼の曲で古くから各地の人形芝居や神楽、能、歌舞伎などの伝統芸能で重要な演目として扱われてきた。近世に多くのバリエーションが生まれたが、ここでは性格の異なる2人の三番叟が登場する。

## 「奥州安達原」 袖萩祭文の段

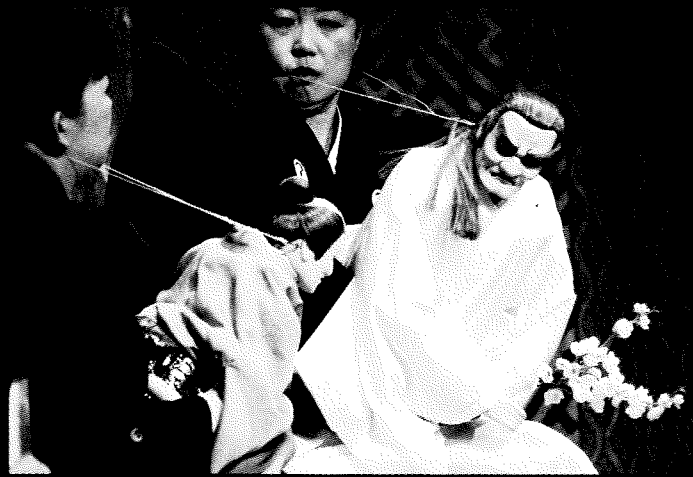
おうしゅう あだちがほら

そではぎさいもん

だん

平安の世、時の帝の弟宮が何者かに誘拐され、宮の守護役である平兼仗は、責任を問われ窮地に陥っていた。事件の背後には、先頃朝廷に滅ぼされた奥州の豪族、安倍一族の再起をかけた陰謀が見え隠れする。主を失った宮の御殿で、兼仗が切腹を迫られて

いるところへ、娘の袖萩が訪ねてきた。かつて浪人者と恋に落ちて勘当され、いまは夫にも離れ盲目の上、物乞い同然の女芸人となり果している。偶然父の窮状を耳にして、幼い娘を連れて駆け付けつけたのだ。しかし謹厳な父はけつして娘を許そうとしない。その上袖萩がみせた書状から、その夫こそ安倍一族の棟梁で宮誘拐の首謀者、安倍貞任と知れる。



### ■ 配役

【袖萩】 亀野直美

【平兼仗直方】 松本幸子

【浜之】 山下潤子

【安倍貞任】 蓬田雅代

【安倍宗任】 鈴木文

【源義家】 松本幸子

【お君】 田川陽香 (1日15時 / 2日15時)

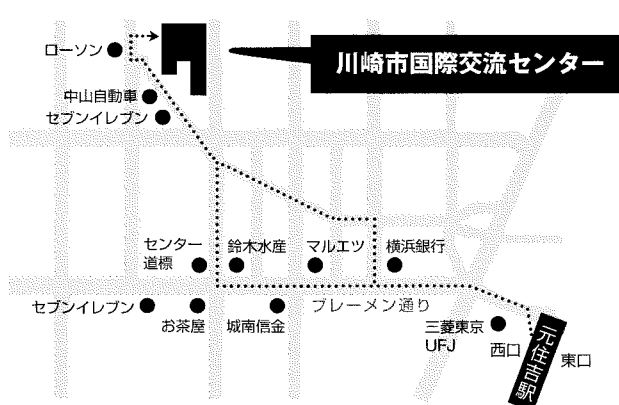
安藤麻衣 (2日11時)

【腰正】 富木義之 (1日15時 / 2日15時)

鶴田理紗 (2日11時)

【仕丁】 金子優子・荒木倫子

兼仗はもはやこれまでと切腹。盲目の袖萩も、図らずも父と敵対する身の上を悟り、時を同じくして刃を自らに突き立てた。そこへ現れたのは、宮中からの使者桂中納言則氏。兼仗と袖萩の姿を冷やかに見降ろすのだが、実はこの男こそ安倍貞任だった。奥州安倍氏の反乱を雄大な構想のうちにサスペンス仕立てて描く、時代浄瑠璃の傑作。



**会場：川崎市国際交流センター**  
〒211-0033 川崎市中原区木月祇園町 2-2  
TEL. 044-435-7000

会場アクセス  
東急東横線・東急目黒線  
「元住吉駅」西口下車徒歩 10分～12分

\*車椅子でのご観劇は、事前にお知らせください。